

令和7年度 神戸市立若草小学校 学校評価報告書

校長名 水田 孝一

記入者名 平田 典子

神戸の教育が目指す人間像	神戸が目指す これからの学校の姿
心豊かに たくましく生きる人間	人がつながり ともに創る みんなの学校
り学 校の 枝目 づ 標	「自ら学び 探求する」に焦点をあて、新しい学力観に合ったカリキュラムマネジメントを進めていく。一人一人が自己肯定感を高め、社会的スキルや規範意識を培うことで、自分を大切に友達や周りの人も大切にできる、思いやりのあるたくましい子の育成を図る。また、更なる授業改革や学力向上に積極的に取り組む。

内容	重点的な取組み	評点 (4段階)	特記事項 (学校自己評価)	関係者評価 (学校自己評価に対する学校運営協議会の意見等)	学校自己評価、関係者評価を踏まえた 次年度の重点的な取組みの案
「心 ゆたかに たくましく」					
思いやりのあるやさしい子	気持ちの良いあいさつ 正しい言葉遣いの徹底	3	正門での日々の挨拶喚起、朝会での呼びかけなどを行った直後は、児童の意識が高まりが見られるが、時間が経つにつれ、もたもたしてしまう傾向がある。言葉遣いに関しても、休み時間の会話などで次年度への継続課題が見られた。	協議会委員の評価は3。保護者アンケート結果でも約85%が良い評価をいただいた。挨拶に関してはできていることとそうでない子の二極化、正しい言葉遣いについては、公の場や目上の方と話すときの使い分けが課題として挙げられた。	挨拶については、一時的なブームに終わらず、児童に挨拶することが当たり前になるまで次年度も繰り返し指導していく。教職員についても、地域で手本となるような挨拶ができるようにしていきたい。言葉遣いについては、まずは大人が正しい言葉遣いで子供たちと関わるよう、教職員はもちろん、保護者への啓発も行っていく。
	自尊感情の育成	3	高学年が、学校生活を自分たちで創り出す姿を様々な場面で体現している。それらが下級生の良い手本となり、全校的に主体的に学校生活を送ることができている。	協議会委員の評価は3.3。子供たちは、変わらず素直で可愛らしいとお褒めいただいた。自分を表現できる環境、安心して過ごせる学級が整っているのを感じるとの意見も聞かれた。ICTの活用により自己表現ツールを使いこなせるようになってきていることも要因に挙げられた。	本校全体の課題として学力向上が毎年の課題として取り上げられる。もちろん学力が向上すれば自尊感情が高まるというほど簡単なものではないが、学校全体としては、まずは学力を向上させていくことで、児童の視野を広げ、充実した生活を送ることができる礎を築いていく。
	思いやりの心情を育てる (豊かな人間関係作り)	4	高学年が低学年の世話をしたり、友達同士でも、ほほえましい姿をたくさん取見することができた。反面、同学年同士では児童間のヒエラルキーを感じるような場面を目にするところがあり、次年度へ向け継続課題が見られた。	協議会委員の評価は4.0。保護者アンケートでも80%を超える良い評価をいただいた。具体的に課題などは聞かれなかったが、子供たちの様子から良い人間関係が築けているのを感じるとの声をいただいた。	子供同士が自主的に関わり合って学習する場面を意図して設けた。学級・学年内はもちろん、異学年間でも交流の輪を更に広げていくことで、他者への思いを感じられる児童を育てていく。
ねばり強くやりぬく子	体力の向上	4	運動習慣が定着していない児童が少なくない。そのような児童は総じて体幹が弱く、姿勢を保持できないため、教室への学習、ひいては学力にも影響がある。体力向上を目指し、継続的な取組が必要。	協議会委員の評価は3.43。こちらも具体的な課題などは聞かれなかったが、「よく転ぶ」という話題が出ている。「落ち着いて行動する」という心の部分と、バランスを取り「上手に転ぶ」という運動能力に関わる部分両面で課題がある。	小学生の発達段階で特に身に付けさせたい体力の一つに「身のこなし」がある。自分の思うように体を巧みに操れない児童が多い。体育の授業のみならず、日々の遊びの中や、授業中の姿勢一つにも体力向上を意識して過ごすようにあらゆる場面で声掛けしていく。
	委員会・係活動の充実	3	委員会に関しては、高学年児童が自発的・積極的に活動する姿が多く見られた。上記・自尊感情の育成にも大きな効果が見られている。良き手本として、学級レベルでも係活動をさらに活性化していきたい。	特筆すべき意見無し	自主的な活動をさらに進めるために、GIGA端末の活用は、効果的と考える。自分たちのやりたい活動をプレゼンしたり、活動を画像や動画で撮影し発信したりする高学年の姿を下の学年も真似することで身に付けていくと考える。
	基本的な生活習慣の確立	3	家庭の協力もあり、大半の児童は基本的な生活習慣が身に付いているが、一部遅刻が常態化している児童、欠席がちな児童が見られる現状がある。家庭への啓発を含め、必要に応じて個別に指導を行っていく。	協議会委員の評価は3.7。大半の家庭は家庭の教育力がによって正しい生活習慣が身に付くが、心配なのはそれがない一部の家庭。そこをどう支援するかが課題であり、地域としてもできないかなければいけない。	一人一人の課題やその原因となる家庭環境も様々である。個別に丁寧に対応し、保護者への理解、協力を求めることが何より重要である。今年度は、放課後の過ごし方、大きな課題が見られた。
自ら学び 探求する子	基礎学力の定着 学習規律の確立	3	若草スタンダードテストに毎年取り組んでいるが、いままでは上手に活用できていなかった。改めて今の若草に何が必要なのかを検討し、対応策を具現化していく。	徐々に改善が見られるものの、小・中ともになお、学力が課題である。読書への興味関心を高め、読書量を増やす工夫、文字に慣れ親しむための工夫が引き続き必要である。アンケートからも、そう感じている保護者は多い。文字を書くこと、文章力やノートづくりの力の低下が気になるものご指摘をいただいた。	若草スタンダードの上手な活用方法を確認する。今、目の前にいる子供たちの実態把握と課題を明確にし、その上で若草小として何に重きを置いて取り組んでいくのかをしっかりと検討し、その内容を教職員間で共通理解していく。
	情報教育の推進 1人1台端末の活用	4	児童・教師ともにスキルは高いレベルを保っている。今後はそのスキルをどう使うか、授業で効果的に活用するにはどうすればよいかという視点を掘り下げ、更なる授業改善を目指していきたい。	協議会委員の評価は3.88。低学年児童もすらすらとPCで学習を進める姿にも感心されていた。昨年度のLDX研究会での成果が表れている。若草のストロングポイントであることには違いないが、この力を継続していけるように取り組んでいきたい。	本校では、学習用児童端末は、学習道具の一つで、なくてはならないものとなった。「端末の使い方工夫」をさらに掘り下げ、より効果的な活用方法を提案し、共有・定着を目指していく。
	家庭学習の充実	3	じぶん学習については、継続的な取組により、一人一人が今何を学習するべきか、具体的に考える資力が定着してきている。反面、基礎・基本の学力をどのように取り組ませるかについては、引き続き検討課題がみられている。	基本的な生活習慣、基礎学力の充実の項と同様に、家庭の教育力が十分でない保護者、保護者をどう啓発していくか、地域としても考えていく必要がある。	じぶん学習が目指す「学び方を学ぶ」という側面と、上記「基礎学力の定着が課題」という本校の実態を両立させていくための取組を模索していきたい。教員間の共通理解・共通行動が肝となる。足並み揃った取り組みができるよう、こまめな情報交換・方針確認を行う。
必須テーマ	①いじめ防止対策に関する取組み	4	いじめに対してより強く危機意識をもつとともに、毎週水曜の連絡会で常に学校全体で情報共有、組織的対応を徹底した。また、事案対応のみならず、未然防止・再発防止に特に注力するよう取り組んだ。	いじめは、今のところ見受けられないとの声をいただいた。日々の取組を学校として発信することは、未然防止や早期発見にもつながることなので、大きなトラブルがないからその先手対策を検討していくことが大切である。	未然防止・再発防止に特に力を注ぎたい。そのために問題行動がない段階で、どれだけいじめ防止に対する啓発活動ができるか。また、小さな芽を見逃さない教師の危機意識を高められるかに重きを置いて、日々研鑽していく。
	②不登校支援の取組み	4	個々の児童の困り感に応じた関わり、保護者との対話・共通意識と共通行動、全職員での情報共有	特筆すべき意見無し	今年度も、いじめ問題よりも不登校問題の方が、課題が大きいのと感じる。そこで今年度は、校内研修等で不登校に関する有識者研修を計画したい。不登校児童・家庭に対して、どのタイミングでどのようなアプローチを掛けるべきかを学び、日々の指導に生かしていく。
	③教職員の働き方改革	4	放課後時間のパターン化で、業務に見通しをもつ Teamsの機能の効果的に活用による会議削減	特筆すべき意見無し	皆さんの協力もあって、勤務時間の大幅な削減を進めることができた。児童の成長に関わる部分が縮小されることがないように、よく検討しながら引き続き、業務の精選を行っていく。
	④保護者・地域への情報提供・発信（すぐるおよびHPの効果的な活用によるタイムリーな情報提供・情報発信ページ等）	4	すぐるおよびHPの効果的な活用によるタイムリーな情報提供・情報発信	協議会委員の皆様が保護者からは、HPの投稿から子供たちの様子が良くわかるとの評価された意見が聞かれた。ただし、紙面配布の良さもあるので、バランスをとりながら発信していきたいと考えている。	すぐるで配ったタイムリーに配信することが効果的な内容と、従来の紙ベースで配った方が周知できる内容を正しく判断し、両立させていくことで、学校からの情報が保護者・地域により正確に伝わる方法を更に工夫していく。

【評点】 4 : 十分達成できた 3 : おおむね達成できた 2 : どちらかと言えば課題がある 1 : 課題がある